

表8 出現推移把握試験2(攪拌刺激)の試験方法及び条件

	I	II
試験期間及び計数間隔	10:30 開始後、運動型細胞が消滅するまで30分置き	12:45 開始後、運動型細胞が消滅するまで20分置き
攪拌刺激方法	攪拌なし：培養器底面からピペットで採取 剥離：研磨用布状たわし小片で30秒手振り攪拌 ハンドミキサー：上記手法で剥離後、調理用ハンドミキサー(13,000回/分)で20秒攪拌	剥離：研磨用布状たわし小片で30秒手振り攪拌 ハンドミキサー10秒：上記手法で剥離後、調理用ハンドミキサー(13,000回/分)で10秒攪拌 ハンドミキサー20秒：上記同様20秒攪拌 ハンドミキサー30秒：上記同様30秒攪拌
照明時間	8:00~20:00 (12時間)	

表9 出現推移把握試験3(刺激時刻)の方法及び条件

試験期間及び計数間隔	刺激を与え、30分後から30分置きに計数し、運動型細胞が確認されなくなるまで
照明時間	8:00~20:00 (12時間)
攪拌刺激方法	研磨用布状たわし小片で剥離し、調理用ハンドミキサー(13,000回/分)で20秒攪拌
刺激開始時刻	9:30刺激区：照明点灯1.5時間後に材料の培養器壁面全量の共生藻を剥離後、刺激 12:30刺激区：照明点灯4.5時間後に上記同一条件で培養した材料の培養器壁面1/2量の共生藻を剥離後、刺激 16:30刺激区：照明点灯8.5時間後に上記同一材料の培養器壁面残の共生藻を剥離後、刺激

(2) 刺激と運動型細胞出現率との関係

刺激と運動型細胞出現率との関係を解明するために、刺激時の水質、細胞密度及び温度による運動型細胞出現率の最高値を比較した。表10、表11、表12、表13に刺激試験の方法及び条件を示した。

表10 刺激試験1(水質)の試験方法及び条件

試験期間及び計数間隔	9:30に刺激を与え、90分後から60分置きに計数し、運動型細胞出現率が低下するまで
試料水温	26.5℃
刺激後の試料温度	28.0~28.5℃
試料の希釈方法及び細胞密度	水質無変化区：材料の培養器から共生藻を剥離後、材料の上澄みで密度調整、 $157 \times 10^4$ cells/ml 水質変化区：同一培養器から共生藻を剥離後、希釈海水で密度調整、 $221 \times 10^4$ cells/ml

表11 刺激試験2(細胞密度)の試験方法及び条件

試験期間及び計数間隔	9:30に刺激を与え、90分後から60分置きに計数し、運動型細胞出現率が低下するまで
試料水温	27.2℃
刺激後の試料温度	28.0~28.8℃
試料の希釈方法	材料の培養器から共生藻を剥離後、希釈海水で密度調整
試料の細胞密度	高密度区： $225 \times 10^4$ cells/ml 低密度区： $107 \times 10^4$ cells/ml